

# 「謳歌」

高村明彦

## 【登場人物】

宮田華子 喜寿を迎えた漫画家

宮田華子（若い頃） ※表記「華」

瓜生信平 段々社編集。

瓜生信平（若い頃） ※表記「瓜」

※ダブルキャスト

望月孝太 俊英社編集

松野正夫 昭文館編集

南幅奈美 華子のアシスタント

若林誠 勝土建社員

勝 涼 勝土建社員

望月隼人 勝土建社員。望月、奈美の息子。 ※表記「隼」

望月隼人（若い頃）

西野夏帆 「はなこのあゆみしみち」インタビュアー

寺沢晶 華子に憧れる漫画家

昭和五〇年代

晩秋の夜。

舞台上手に宮田華子の住むアパートの一室。

開演前、華子と南幅奈美が楽しげに漫画原稿を描いている。

華子の座卓（炬燵）には傾斜台と中途の漫画原稿、インク、

各種定規、ペン立て（鉛筆やペン軸がみっちり詰って

る）、ティッシュボックスなど。

ラジオから流行曲が流れている。

舞台下手に原稿の置かれたテーブルと椅子が2脚。

溶暗。奈美、去る。

開演。

外の通りを焼き芋屋が通りすぎる。

明かりがつく。

喜寿の華子が下手の席で執筆中である。

若い華子は横になって眠っている。

華 はっ……焼き芋！？。あああ、いかん、眠ってしまった……。

いま何時？！ 5時！？ はわわわ、やらないと……。

華子、原稿に取り掛かる。

瓜生、やってくる。

瓜 どう？ 順調？

華 あああ、はい、がんばってます！

瓜 差し入れ、焼き芋。

華 わー！

瓜 食べる？

華 食べます食べます食べます！

瓜 （すつと袋を引いて）終わったらね。

華 そんなー。

瓜 べ切まであと5時間ある。これを余裕とみるか、ギリギリと

みるか。

華 余裕です！

瓜 あと何ページ？

華 8ページ！

瓜 やって。

華 ふええ、焼き芋……。

瓜 後で。やって！

華 はい。

瓜 ……奈美ちゃんは？

華 奥で寝てます。

瓜 どうして。

華 熱があるんですよ。四〇度も。

瓜 四〇度？！ 測ったのか。

華 測りましたよ。

望月孝太、登場。

望月 こんばんはー、俊英社の望月です。

華 げ。

望月 おつかれさまです！ 原稿いただきにありがとうございました！

瓜 望月氏、悪いけどウチ先にやらせてもらってるから。

望月 え、どういうことですか。

瓜 待っててくれる？

望月 は？ 先生。

華 ごめんなさい！

望月 えっ、原稿、できてますよね？

華 今やっています！

瓜 ウチのをね。

望月 え、え、よくわかんないな。

華 すぐ終わりますから！

瓜 終わるかなあ……。

華 芋お！ 焼き芋ー！

望月 あ、あの、ぼくのこの原稿は？

華 こっち片付けて、次ね！

望月 終わってないんですか？！

華 終わってますよおー、頭の中では！

望月 それ終わってない人の常套句じゃないですか！

瓜 まま、座って。

望月 そんな！ 約束しましたよね？

華 はい！

瓜 望月氏、

望月 先生昨日電話で約束したじゃないですか！

華 はい！

瓜 望月氏、焼き芋食べる？

望月 食べないです！

華 食べないでください！ あたしの！

瓜 (望月に) キライですか？ 焼き芋。

華 大好き！

望月 好きですけど！ 今はそれどころじゃ。

瓜 ちよつと冷静になりましょうよ。さ座って。

望月 まさか、できてないだなんて…。

瓜 校了何時？

望月 いや早ければ早いほどいいんで…。  
瓜 そう、ウチもなんだよね。

そこへ、昭文館の松野がやってくる。

松野 おばんでございます！ 松野です！ あら皆さんお揃いで。

先生、原稿をー

華 やってます！

松野 原稿いただきにありがとうございましたが？

華 しばしお待ちを！ 焼き芋焼き芋焼き芋…。

松野、訝しげに執筆中の原稿を覗いて、

松野 あれ？ これは、瓜生さんこのですね。

瓜 そ。

華 ベイクド、スイーツポテイトオオオ！

松野 え…、まさか！

瓜 そのまさかですよ、正夫さん。

松野 先生昨日電話で約束したじゃないですか！

華 守りますよ、約束は守ります！

松野 仕上げだけでほとんど終わってますって言ったじゃないですか！

瓜 松野さん、イージーイージー。

松野 え。

瓜 もう、流れに身を任せましょうよ。さ、座って。芋でも食いましょう。

華 食わないで！

瓜 いっぱいありますから、先生の分も残しておきますって。

華 絶対ね。

瓜 ささ、望月氏も。

松野 嗚呼、代原用意しなくちゃマズいかな…、編集長に殺される…。

瓜 (華子をみて) おお、いい調子いい調子。「馬の鼻先にニンジンぶら下げる」って言いますが、先生の場合は、焼き芋でしたね。ま、邪魔しないで待ちましょう。(松野に) どうぞ、

瓜生、焼き芋を差し出す。

松野 何ですか？

瓜 焼き芋

松野 結構です。

瓜 望月氏は。

望月 じゃ、いただきます。

瓜 はい(望月に投げる)、まだあったかいですから。もう一人いれば麻雀でもできるんだけどな、三麻じゃ味気ないし。

望月 (焼き芋食べて) あ、おいひいです。

瓜 でしょ？

華 あああ、

瓜 松野さん、すごい顔してますよ。

松野 え、ああ、そりやしますよ…。先生、もしかして僕んこののは段々社さんと俊英社さんの次ですか？

華 えーっと、あの、同時進行で！

松野 それは無理ですよね！

華 ペン入れだけですから〜！

松野 だけって……全然入れてなかったんですか？！

瓜 お静かに。そうだ、将棋でもしましょうか。

松野 はー……。

瓜 しましよ、将棋、ね。

松野 もおー、騙された。だから無理なんですよ先生に三誌かけ持ちなんて。

華 無茶だけど、無理じゃない！

瓜 売れっ子さんだからしょうがないでしょ、ねえ。

望月 それもそうですね、焼き芋ほんと美味しいです。

瓜 よかった。

華 無茶だけど、無理じゃない！

望月 新連載、評判も上々なんじゃないですか？

松野 おかげさまで！

望月 いいじゃないですか。

今にも死にそうな風体の南幅奈美が這ってやってくる。

奈美 せんせーい……

瓜 わ！ 何？

華 奈美ちゃん！

奈美 あたし、手伝いますよお……

華 無理無理無理、寝てなつて！

奈美 いや、だいぶよくなりましたから……

華 いやいやいや

瓜 じゃ、手伝って。

華 瓜生さん？！

瓜 奈美氏、風邪？

奈美 はい、たぶん……

瓜 ちゃんと測った？ 体温計で。

奈美 ……測りましたけど？

瓜 四〇度？

奈美 うう……

瓜 じゃあがんばろうか。

華 いや、休ませてあげないと！

瓜 終わってから休めば？

華 えー……

瓜 風邪くらいで死なないでしょ。原稿のほうが大事だし。

華 いやでも、

瓜 (望月、松野に) どう思います？

松野 僕は、一刻でも早くあげていただきたいです！

瓜 望月氏、

望月 えつとですね、

瓜 はい

望月 病は気から。

華 いや病発症してるから。

望月 ご本人はやるって言ってるんで。

華 えー……

瓜 無茶だけど、無理じゃない。

華 ぐ……。

奈美 ぜんぜい、お願いしまーす……

華 (躊躇うが決心して) じゃ、ここ、カケアミお願い!

奈美 ラジャー。

華 ベタとトーンも!

瓜生、奥の棚から将棋盤と駒を持ってくる。

瓜 松野さん、やりましょう。

松野 えー。

瓜 ささ、二枚落ちでもいいですから。

渋々駒を並べる松野。

望月、盤を覗き込もうとして、わりとかわいい音の放屁。

望月 ……………。

一同 ……………。

望月、白を切つて再び将棋盤を覗き込む。

今度は汚く放屁。

望月 あああつ、すいません!

全員咽て咳き込む。

奈美 うえっほうえっほ! 何この毒ガス……

松野 助けて、助けて!

華子 ハッハッハッハ、こいづはー、おもしろ!

照明変化。

望月、瓜生、奈美、松野、去る。

喜寿の華子、若い華子を微笑みながら見つめている。

二人、眼が合う。

喜寿の華子、若い華子からベレー帽を受け取る。

若い華子、去る。

喜寿の華子、座卓に座る。

二〇一七年十一月一日。

朝5時。

華子、ベレー帽をかぶるとしやきつとする。

華子 やるか。

黙々と作画に取り掛かる。

音楽。

ナレーション(西野夏帆の声)が流れる。

ナレーション(以下ナレ) 宮田華子さん、七十七歳。この度、喜

寿を迎えられた現役の漫画家です。一九四〇年生まれ、岩手県盛

岡市出身。今回初めて仕事を公開します。

華子 何も面白いことないわよ。

ナレ まあまあ、そうおっしゃらずに。

華子 邪魔しないでね。

ナレ はい。先生は毎朝この時間に起きるのですか？

華子 うーん、だいたい4時くらいかな。

ナレ お早いですね。

華子 勤め人じゃないから。

ナレ 今朝は冷えましたね。

華子 そうね。

ナレ 起きてすぐお仕事に取り掛かるのですね。

華子 そ。

ナレ 朝ごはんはどんなさつているのですか？

華子 そりゃ、空いたら食べるわよ。私だけなんだから、好きなと

きに好きな時間に。好きな分だけ。

ナレ なるほど。

瓜生 (声) おーい！

華子 あ。

ナレ おや、誰か来たようですね。

瓜生 (声) 入るぞー！

華子 あー(溜息)

ナレ こんな早い時間に一体誰でしょう？

瓜生登場。

瓜生 おっはよう！

華子 何よ。

瓜生 誕生日おめでとう。

華子 は？

瓜生 おめでとう。はい(小さなブーケを差し出す)

華子 えっ、いらないわよ花なんて。

瓜生 まあそういわずに。

華子 何時だと思ってるのよ。

瓜生 (腕時計見て)朝5時になるか。はは、まだ暗いね。

華子 また早すぎるでしょう。

瓜生 華ちゃんにとっては普通でしょう。あ、おれもコーヒー飲ん

でいい？

華子 えー？

瓜生 冷えちゃったからさー。(と言って奥へ)

瓜生、「モーニングコーヒー」を歌いながらコーヒーを持つ

てくる。

華子 何なのよ。

瓜生 最近声の調子おかしくつてさ(コーヒーを飲む)。

華子 は？

瓜生 どう、順調？

華子 ……………。

瓜生 ひどいなー。睨まないでよ、誕生日のプレゼント誰よりも早

く持ってきたのに。

華子 お花ね。はいはいありがとう。飾っておいて。

瓜生、机の上のペン立てに花を飾る。

瓜生 華子さん、最近の女の人は、花をもらっても喜ばないのかね。

華子 悪かったね、最近の女じゃなくて。

瓜生 そんなこと言っていないよー。

華子 何よ。

瓜生 (ニコニコして) 喜寿、か。

華子 ……なに

瓜生 喜び、寿(コトブキ)。

華子 喜ぶことなんかはないのよ、歳なんかとつても。

瓜生 めでたいじゃないの。

華子 一年一年、あの世に近付いてるんだから。

瓜生 いや華ちゃんは百まで生きますよ。

華子 やめてよ。

瓜生 おれは自信ないけどね。

華子 若作りしてるくせに。

瓜生 まあね。

ナレ あのうち、どちらさまなんでしょうか？

華子 腐れ縁。

瓜生 何が。

華子 だってそうでしょう。

瓜生 ありがたいと思ってるよおれは。

華子 あらそ。

瓜生 普通ないよ、こんな関係。おれもね、何かこう表現者だった

りね、純文学の作家先生だったりしたらね、華ちゃんと僕の関係

をね、自伝的に発表して、賞なんか取れたかもしれない。

華子 何言ってるの。

瓜生 愛してるんだもの！ 君のことを！

ナレ まー、なんということでしょう。朝っぱらから！

華子、そ知らぬ顔。

瓜生 誕生日に悪いけど、大事な話。

華子 なに。

瓜生 孝(こう)ちゃん、死んだよ。

華子 えっ。

瓜生 ゆうべ。

華子 望月さん亡くなったの？！

瓜生 うん。

華子 まー……。

瓜生 あさって火葬ね。

華子 そうなの。なんで急に、どこか悪かったの？

瓜生 心臓悪かったじゃない。

華子 うそお。

瓜生 あれ知らなかった？

華子 知らない。

瓜生 バイパスしゅぢゅちゅしてさ、

華子 しゅぢゅちゅ？

瓜生 うん、手術。いきなり調子悪くなったみたい。

華子 えー……。

瓜生 まー太ってたからなあ。

華子 うん。

瓜生 戦友が、一人、また一人とねえ。

華子 え、それ言いに来たの。

瓜生 いやそれだけじゃなく、メインは誕生日プレゼントよ。あ、

ケーキなくてごめん。

華子 いい、血糖値あがるから。

瓜生 そう思ってた。

華子 一人息子いたよね、奈美ちゃんとの。

瓜生 とつくに独立してるでしょ、まあ喪主かな。

華子 ふうん。

瓜生 あ、あれ知ってる？ こないだね、長野の従兄弟がさ、

華子 うん。

瓜生 ドライブスルー葬儀、行って来たんだって。

華子 何それ。

瓜生 ドライブスルー葬儀。クルマで葬儀会場に行って、クルマの

中からご焼香ボタンを押すの。

華子 え！

瓜生 で、タッチパネルがあつてお供えのお花も注文できるって。

華子 そうなの！

瓜生 全然クルマから降りる必要なくなったの。あともう一つ、坊

主ってパネルがあつてさ、好みの坊主も選べるのよ。メガネとか、

ハゲとか。

華子 は？ いや坊主はだいたいハゲでしょ。

瓜生 ロングとかズラとかイケメンとか。お好みで。

華子 えー。

瓜生 最新の火葬場では焼き方まで選べるみたい。レア、ミディア

ム、いつそ骨まで残すとか。はっはっはっは！

華子 (呆れてため息)

瓜生 笑うとこ笑うとこ。でも、ドライブスルー葬儀場はほんと。

全部システム化されてんだよ。

華子 へー。

瓜生 よく考えつくよなあ。やっぱり足弱くなるとき、クルマから

出るのたいへんだからなあー。そのままぱーつと行ってさあ。

華子 望月さん亡くなつたか。あ、なんか思い出しちゃった。

瓜生 昔のこと？

華子 うん。

若華子、登場。

望月孝太、急いで登場。スーツで汗だく。土下座。

アシスタントの奈美登場。

望月 たたたたいへん、申し訳ありませんでした！

奈美 ちよつとありえないでしょ！

望月 すいません！ すいませんでした！

奈美 一体何がどうなればこういうことが起こるわけ？

望月 ひー！ すいませんでした！

奈美 先生！ 先生も言つてやつてください！

華 あー、まあ、起きちゃったことは……。

奈美 仕方なくないですよ！ みるコラ！

華 まあまあ、奈美ちゃん。

奈美、マンガの掲載誌を手に、望月に詰め寄る。

奈美 なんで、1ページ目で、栗駒山の爆発が起こって、3ページ

目で、栗駒山をハイキングしてるんですか？

望月 それはー、そのー

奈美 これ意味つながってます？ つながってます？



望月 えっとですわねー、

奈美 物事には順序がありますよ。Aがあつて、Bがあつて、C、  
ですわね？

望月 はい。

奈美 Aがあつて、Bがあつて、C、ですわね？

望月 はい。

奈美 なんでCが最初に来るかな？！

望月 すみません！

奈美 元原稿にページ数は書いてありましたよね？ ネームも読ん  
でますよね？ 何でこんなミスが起きるのか理解不能。怒りすら  
通り越して激怒ですよ！ ね、先生？

華 あ、そうね。

奈美 先生は、戦争がやつと終わって、平穏な日常が戻って、後に  
栗駒山の昭和湖を散策した思い出を、このページに託しているん  
ですよ？ その掲載順を間違えるなんてありえない！ ほんとあ  
りえない！

望月 単行本では修正しますので！

奈美 あたりまえだろう！

望月 乱丁扱いとして、編集部で着払いで刷りなおしと交換させて  
いただきますし、次号、お詫びのコメントも出しますので！

奈美 それもあたりまえ！

華 まあまあ、

望月 嗚呼、胸が痛い……。

華 大丈夫？

奈美 心を痛めているのは先生なんですよ！

望月 はい仰るとおりです！ これ、すみません、つまらないもの

ですが。

望月、経木につつまれた鶯餅を献上する。

奈美 なんですかこれ

望月 鶯餅ですわね

奈美 ……望月さん、よりによって鶯餅ですか？

望月 ホーホケキョ…

奈美 望月さんだからですか？

望月 いえ、私と、先生の仲を取りモチたい一心で。

奈美 小賢しい！ 嗚呼小賢しい！ なぜあなたは小賢しいこと考  
えるくせに、掲載順という大事なことを間違える！

華 私が悪かったのよ。入稿ギリギリだったから。

奈美 先生はちつとも悪くないです！ ふぬうー！

奈美、鶯餅を食いちぎる。

華 奈美ちゃん……

奈美 ふぬう（もぐもぐ）……けっこううまいいー

望月 あ、結構おいしいんですよ、ここの餅。

奈美 一難去ったような顔するな！

望月 すいません！

奈美 ぐぬぬう……先生もどうですか？ 美味しいですよ。

華 うん、あとでいただくかな。

奈美 お茶！

望月 へ？

奈美 望月さんお茶！

望月 は、はい！

奈美 ぐっ！

華 奈美ちゃん？

望月 ありや？

奈美 ぐっ！ ぐむうう………！

華 たいへん！ モチ詰まらせちゃったかも！

望月 うっひやあ。

華 お水！ お水お水！

若華子、奥に去る。

奈美をじつとみる望月。

望月 念のため、人口呼吸したほうがいいかな？

望月、奈美に接吻。けして人工呼吸ではない。

二人、恋に落ちて睦まじく揃って座る。

奈美 (喜寿の華子に) いやあ、あの時はほんとに死ぬかと思いましたよ。

望月 びっくりしたねー。

奈美 ねー。

望月 まさか、のどにつまらすとは。

奈美 ごめんごめん、それだけアタマに来てたんだよー！ あのね、モチつまらせたときは人工呼吸じゃだめ。背中叩かないと。

望月 吸い出すつもりだったんだよ！

奈美 濃厚すぎだから！ 孝ちゃんも食べる？ (鶯餅を渡す)  
望月 いただく。 (鶯餅食べる)

ナレーターの西野夏帆、登場。

西野 先生、このお二人は？

華子 私の唯一のアシスタント、南幅奈美さん、あ、これ当事の苗字ね。その後、望月奈美さん。で、こちらが俊英社編集の望月孝太さん。

瓜生 おれ、初代編集ね。

西野 先ほどののは、かの有名な掲載順取り違い事件ですね。

華子 はい。

望月 その節は、本当にすみませんでした。

華子 いいのよ、過ぎてしまえばみんないい思い出だから。

瓜生 ウンウン、そうさそうさ。

奈美 反省しろ。

望月 はい。

西野 奈美さんと望月さんはご結婚なさっているのですか？

奈美 やだ♪

望月 いや照れますねー。なんか家内は、もともと僕に気があったみたいなんですよ。

奈美 ころら♪

望月 ぼくのこのモチモチした腹とか、キャワイイって言ってくれます。

奈美 ころら♪

望月 最初ぼくに対して、なぜか風当たりが強かったんですけど、それは、好意の裏返しで。

奈美 こらこらこら♪

望月 先生のおかげで、ご縁に巡り合えました。ありがとうございます  
ます。

奈美 あたしき、あんなに掲載順とかABCからとか順序とか言うって激怒したのに、結局私たち順番めちやくちやだったね。

望月 それは二人だけの秘密！

瓜生 いやバレてるけど。

奈美 隼人ー。

幼い望月隼人、登場。

隼人 はい。

奈美 息子です。

西野 あらこんにちは。

隼人 おはようございます。

華子 おはよう。元気？

隼人 うん。

華子 絵、書く？

隼人 うん。

隼人、絵を描き始める。

華子 それで、望月さん、あなた死んだってホント？

望月 え！ 僕死んだんですか！

奈美 ううっ（泣）

隼人 パパ死んだんだ。

望月 いつ？

瓜生 ゆうべ。

望月 ゆうべ？！

瓜生 いや自分のことなんだからさあ。

望月 そう言われても……。死因は、死因は何なんですか？

華子 （瓜生に）何なの？

隼人 穴に、落ちた？

望月 いや穴には落ちないだろ、マリオじゃないんだからさー。

瓜生 心臓？ 大動脈瘤かな、バイパス手術の予後が急に悪くなっ  
たって。いや奈美ちゃんから聞いたんだけど。

望月 あらあ。気をつけていたのに。

奈美 そうなのよ……

望月 そんな……

奈美 がんばったのにね……

望月 ええっ……。

望月、華子に、

望月 あの、それで、僕はあとのくらい生きられるんですか？

瓜生 えっ？

望月 あと、どのくらい僕は、生きられるんですか。

瓜生 （華子に）どのくらいなの？

華子 いやあたしに聞かれても。

望月 お願いします！

奈美 あたしからも！ お願いします！

華子 あたしにお願いされるようなことじゃないじゃないの。

瓜生 だよ。

望月 頼みます！ そこをなんとか！

華子 え、ええー？ ……まあ、がんばってみるけど。

望月 やった！

奈美 よかったね！

望月 ウン。

奈美 先生、ありがとうございます。

華子 いやあ……。

奈美 先生は、お身体大丈夫ですか。

華子 まあ今のところはね、おかげさまで、ちよつと血圧高いくらいで。

奈美 肩、揉みましょうか！

華子 え、いいわよ。

奈美 いや、プロの技、サービスしますから。

望月 めっちゃ気持ちいいですよ。

華子 そう？ けど悪いわねえ。

奈美 遠慮なく！

華子 じゃあ、お願いします。

奈美 はい。

奈美、華子の肩を揉む。

華子 あら、あらら、いいわねえ。

奈美 うわー、すごい凝ってますよ、やっぱり。

華子 ほんとう。

望月 (瓜生に) 先輩。

瓜生 何？

望月 肩、揉みましょうか？

瓜生 え、何。

望月 アマの技、サービスしますから。

瓜生 なんてなんでなんで。

望月 なかなかないですよ、もう死んでる人に揉んでもらうなんて。

瓜生 気持ち悪いな！

望月 遠慮なく！ お世話になったじゃないですか。

瓜生 んじゃ、まあ。

望月 はい！ (と言って頭を揉む)

瓜生 頭から！？

望月 頭皮マッサージを。

瓜生 頭皮はいいよ、もう毛根も蘇らないから！

西野 アツハツハツハ！ (一同の視線に気付き) ……すみません。

奈美 こないだ、お店にプロ棋士目指してる若い子が来たんですよ。

華子 プロ棋士？

奈美 将棋の。

瓜生 ホント？

奈美 はい

瓜生 すぐえな、いるんだ！

奈美 ばつぎばきでした、肩。今までで一番硬かったかも。

華子 やっぱりねえ。

奈美 先生、それに負けてないです！

華子 あらま。

望月 先輩。

瓜生 あ？

望月 先輩の肩、コンニャクみたいですね。

瓜生 うるさいよ。

望月 すごい柔らかいです。

奈美 先生、今になって思うんですけど、あたし漫画家にならなくてよかったかもしれませんね。

華子 うーん、それはねえ（なんとも言えない）。

奈美 すっごいイライラしてましたもん。なんでしようね、あれ、

執着心ですか？ こうありたい自分になれない苛立ち、葛藤、怒り……。どれだけこの人に八つ当たりしたことか。

望月 アハハハ

奈美 そういう意味では相性よかったのかもしれないですね。いくら

怒っても、全然ダメージ受けないっていうか。

望月 「北斗の拳」のハート様だからね。

華子 ありがとう、もう十分よ。

奈美 はい。

瓜生 孝ちゃん、おれもいいよ。

望月 はい。（といてって頭を揉もうとする）

瓜生 だから頭はいいんだっつーの！

奈美 隼人、そろそろ帰ろうか。

隼人 えーもうちよつと。

華子 いいわよ、まだいても。

奈美 いや悪いですから。

華子 なんも、ねえ。

奈美 じゃあすみませんけど、お願いします。先生、お邪魔しまし

た。

望月 お邪魔しました。

奈美 あと、よろしくお願いしますね。

2人、去る。

瓜生 逝っちまったのか。

華子 そうね。あなた行かなくていいの？

瓜生 え?! え？

華子 会社。

瓜生 会社か、びっくりした。いや行くんだけど。

華子 社長？。

瓜生 お願いがあるんだ。

華子 何よあらたまつて。

若い瓜生、若い華子登場。

瓜 お願いがあるんだ。

華子 あ、

華 何ですか、あらたまつて。

瓜 来月、

華 来月？

瓜 百ページ、増ページで頼む！

華 え！ 百ページ？！

瓜 頼む！ 新年特大号、カラー三〇ページの、読み切り百ページ。

華 しょ、正気ですか？

瓜 正気だ、編集長のゴーサインも出てる。

華 そんな急に言われても、私がゴーできません！

瓜 なぜ？

華 今の進行みてください。すでに殺人スケジュールです。今年も正月ないじゃないですか！

瓜 実は、もうこれで行けますって言っちゃったんだよ。

華 えええ。

瓜 だから、なんとか。

華 外堀が埋められている……。

瓜 じゃあ！

華 じゃあ？

瓜 結婚してくれ。

華 えええ！

瓜 結婚してください。おれと。

華 はい？

瓜 結婚、しよう。

華 は？

瓜 毎朝、君の描いた漫画を読みながら、君の作った味噌汁が飲みたい。

華 うえ！ なんで？ なんで？

瓜 これから、二人三脚で。

華 そそ、そんな。

瓜 華ちゃん、いや、華子先生、いや、華子さん。読みきり増ページをとるか、おれと結婚をとるか。二つに一つ。

華 なんで二者択一！

瓜 絶対得だって！

華 は？

瓜 得だって、結婚しといたほうが！ おれと！

華 いや損得の問題では……

瓜 おれ、出世するよ？

華 え

瓜 漫画業界はこれからも右肩上がりだから。うちも他誌も発行部数どんどん増えてる。手塚先生が切り開いた漫画のアニメ化も当たり前になってる。華ちゃんがこれから漫画を描いていく土台をおれが築く！ だから！

華 はあ……

瓜 だから、ね、結婚。おれ、将来編集長のポストも確約されていると言っても過言ではない。

華 うう、

瓜 華ちゃん。

華 ……増ページでお願いします。

瓜 え……。ワンモア、プリーズ、

華 増ページで。

瓜 おうふ！

華 がんばります！

瓜 あのさ、おれ出世するよ？

華 はい。

瓜 漫画業界はこれからも右肩上がりだよ？ うちも他誌も発行部数どんどん増えてるよ？ 手塚先生が切り開いた漫画のアニメ化も当たり前になってるよ？ 華ちゃんがこれから漫画を描いていく土台をお、れが、築く、よ？！

華 増、ページで！

瓜 パオーン！ 将来編集長のポストも確約されていると言っても過言ではないよ？ なのに、なぜ！ 理由を聞かせてくれ！

華 いや、増ページか結婚って聞いたの瓜生さんでしょ。

瓜 それだけか。

華 いやいやいや、

瓜 それだけなのか。

華 だって……。

瓜 じゃ、増ページはなかったことにするう。

華 は？

瓜 編集長にもゾウさんにもやつば無理ですって言う！

華 ちよつとちよつと！

瓜 結婚、以上。

華 なんてっ？！

瓜 (グダグダ寝て) えー、だめなのー、そんなあー、おれ聞いて

ないー、いや聞かされたけどー、そりゃないよお、ぐあああ、

隼人 だらしがないな、まったく！

華子 そうなのよ。

瓜生 若気の至りです。

瓜 ぐえええ、ふええええ……

華 瓜生さん、

瓜 ぬわあー……

華 瓜生さん。

瓜 (止まって) ……はい。

華 私、描くのが好きなんです。

瓜 え……、知ってるけど。

華 とにかく、描くのが好き。だから。

松野、登場。

松野 どうも、松野です。先生、ネームの打ち合わせをー

瓜 (いきなりシャキッと) じゃ、そういうことでね、新年合併号の増ページ、よろしくお願いします。読みきりのネームは、

出来次第みせてください。

松野 ええ、なんの話ですか。

瓜 おつといけねえ、企業秘密。

松野 まさか、

瓜 そのまさかですよ、正夫さん、

松野 読みきりですか？！

瓜 はい。

松野 ずるい！ ウチにもお願いします！

瓜 無理無理無理、私はね、先ほどある条件を提示し、読みきり執筆を迫ったんです。作戦は見事成功しました。引き換えに、心に

深い深いダメージを受け、今でもだからだと血が流れ続けていま

すけどね……。正直、松野さんにはそんな芸当無理でしょう。

松野 一体どんな条件を、先生、

華 や、結婚しろって。

松野 えー？！

瓜 ね、無理でしょう？ そんな自殺行為。

松野 結婚してください！

瓜&華 え！

松野 わたくし、前からお慕い申し上げておりました。

華 いやいやいや、

松野 ご無理にとはいけません、所帯を築いてくれるだけで、

華 同じこと！ それ同じこと！

松野 飲み屋のねーちゃんくらいしか出会いがないですよ！！

あと大家の婆さんだけで！

華 あたしに言われても！

松野 無理なんですか？

華 はい。

松野 どうして瓜生さんはよくて、ぼくはダメなんですかあ！

瓜 いや、おれもダメだったよ？

松野 ダメなんですね……

華 あのですね、

松野 じゃあ、百歩譲って、うちにも読みきりで！

華 すいません、これドッキリか何かですか？

松野 ドッキリじゃなく読みきりです！

華 あわわ。

松野 うちにも！

華 わかりました。

松野 やった！

瓜 先生ダメですよ、そんな安請け合いしちや。

華 いやだって、不公平じゃないですか。

松野 編集長に褒められるうー。電話お借りしますね！（奥に去る）

西野 これ本当にあったことですか。

華子 ほんとなのよ。

瓜生 若気の至りです。いやここまで語るの？

華子 何事も、正直にね。

西野 ありがとうございます。

瓜 描くのが好きでも、両立できないものかな。

華 え、

瓜生 両立。

華 あー、でもそのー、

瓜生 冗談で言ってるわけじゃないんだよ。ドッキリでもない。

華 はい。

瓜生 もうちよつと考えてもらえないだろうか。

華 ……。

瓜生 頼む。

別の場所で、望月と奈美。

望月 ぼくと結婚してください！

奈美 え、

望月 お願いします！

奈美 ……私でよければ。

隼人 ママー、パー！（拍手）

華 私、人よりわがままで、想像力が豊かなんだと思います。

瓜 うん。

華 あと、もしも結婚したらですけど、やってあげたいこととか、やるべきことが増えると思うんですね。



瓜 うん。

華 漫画、描いてる暇は、なくなるかも。

瓜 いやそうはさせないよ。

華 違うんです、相手の方がどうこうではなくて、自分の問題で。

瓜 執筆に対してはあくまで仕事としてのサポートをするよ。邪魔

はしない。

華 とは言ってもですね…。

瓜 何。

華 願いが、叶っているの。

瓜 願いが？

華 お願いをしたんです。

瓜 誰に？ 神様とか？

華 はい、ちよつと恥ずかしいんですけど。

瓜 いやいや。

華 私に漫画を描かせてください。もし描かせてもらえるのなら、

普通の幸せはいりません。家庭も、子どもももたなくていいです、つて。

瓜 それは…

華 だから、このままで。ね、華子先生。

華子 そう。

若華子、去る。瓜生、残されて、去る。

西野 切ない、切ないです！

瓜生 切ないよなあ！ おれ！

西野 先生、こんなこと聞くのはなんです、意志は固かったんで

すか。

瓜生 固い固い！

華子 しょうがないじゃない、それが私の生きる道なんだから！

西野 すごい。私なら迷っちゃうなー！

瓜生 え、じゃ、結婚する？

西野 ダメですよ、お爺様♪

華子 ハッハッハッハ！

瓜生 おれ中身変わらないぞ、かれこれ半世紀。

華子 お爺様、ハッハッハ！

瓜生 同類同類！

華子 はー、で、お願いってなに？

瓜生 え

華子 さつき言ってたじゃない、お願いがあるのかなんとか。

瓜生 いやあるんだけど。この流れじゃなあ…。

華子 なによ。

瓜生 また後にする！ じゃ！

華子 へんなの。

瓜生 コーヒーごっそさん！

瓜生、去る。

華子 変わらないんだから。

西野 うらやましいですね、

華子 どこが？

西野 あたし絶対そういうお二人みたいな関係、築けないですもん。

華子 いや若いからねえ。

西野 それだけじゃないです、環境とか、歩いてこられた道のりとか。

華子 たいしたことないんだけどね。

西野 ありますよお。

華子 そお？

西野 お話くださりありがとうございます。

華子 なんかこのシーン描くの億劫だわ。

西野 億劫なことあるんですか？

華子 あるわよ、もちろん。

西野 でも、好きなんですよね。

華子 好きよ。

西野 やっぱりうらやましい。憧れます。

華子 独りぼっちなのよ、こうしてないと。

西野 え。

華子 賑やかでしょう、描いていけば。

西野 はい。

華子 (熱心に絵を描いている隼人をみて) 隼人、

隼人 何？

華子 絵描くの好き？

隼人 うん。

華子 漫画家なる？

隼人 うーん、わかんない。多分ならない。

華子 あらそう。

西野 じゃ、他になりたいものあるの？

隼人 本屋さん！

華子 へー！

西野 好きなんだ、本。

隼人 うん。

華子 本屋か、売るほうか。婆さんの本売っておくれよ、頼むぞ。

西野 あはは、何描いてるのかな？

隼人 バッタばくちゃんと、アリばくちゃん。

西野 え？

隼人 ばくちゃんがね、バッタとアリに進化した。

西野 へえ！ 進化って、ポケモンのな？

隼人 違う、ばくちゃん！ ポケモンじゃない。

西野 すみません。

隼人 特技はね、ジャンプと、バイオリン。アリの特技はね、労働。

華子&西野 労働！

隼人 はたらくのが得意。

華子 アリとキリギリスか！

隼人 (ニヤニヤして、西野に) はい、あげる！

西野 えくれるの？

隼人 うん。じゃね！

西野 ええ、いっちゃうの。

隼人 おばあちゃん、また来るね！ あばよ！

西野 あばよ！

華子 いつでもおいで！

隼人、去る。

華子 孫みたいだったねえ。

西野 はい。

華子 あんた結婚は？

西野 え？！

華子 相手いるの？ 彼氏は。

西野 いや、あの、予定は未定で。

華子 いるんだ。

西野 一応。

華子 何やってる人？

西野 職人的な。

華子 職人？

西野 本人はそう言ってますけど。

華子 いいじゃないのー。

西野 ええ、まあ。

華子 長男？ 次男？

西野 末っ子ですね。お兄さん二人。

華子 いいじゃないのー。

西野 いやでも歳下なんですよね。4つも。

華子 あらま！

西野 はい。

華子 いいアドバイス、ひとつね。

西野 なんですかなんですか！

華子 彼氏にね、将来自分の家を建てたいか建てたくないか聞いて

くらん。

西野 はあ。

華子 建てたいって言ったら大いに見込みあり。

西野 え！

華子 全然考えてないようだったら、考えさせなさい。

西野 ええ、「家」基準ですか。

華子 そこよ、そこが大事よー。自立。

西野 うーん……。

華子 どう？

西野 建てるって言うかなあ。

華子 言わなさそう？

西野 壊すほうなんです。

華子 え。

西野 解体業やってるんですよ、彼氏。

華子 へー！

西野 まだ二十歳ですし…。

華子 あら！

若林、勝涼、脚立とハンマーを持って登場。

若林 涼！

涼 はい。

若林 カベの、下地のねえところから壊していけよ。

涼 はい！（脚立を立てて登る）やっちゃっていいですか？

若林 ユーやっちゃいな！

涼、脚立に登り、ハンマーを振るって壁を壊す。

振りにあわせて、ドカン！ ドカン！ ドカン！

西野 お父さんがその会社の社長なんですけど、

華子 社長の息子！

西野 いえ、それがその……

華子 ん？

西野 不渡り出しそうだって…。

華子 え！

西野 仕事が全然ないわけではなく、今もやっているんですけど、返済の見込みが、ちよつと…。

華子 それは大変。私、ヘンなこと言っちゃったわね、ごめんね。

西野 いえいえ。でも、もし倒産したら、自己破産ですかね…。

華子 経営者はお父さんでしょ？

西野 はい。

華子 民事再生とかかしらねえ…。

西野 だから、将来あるのか、ないのか。

華子 うーん……。

西野 好きは好きなんですけど。

華子 難しいわよね。

涼、ハンマーを振るう。ドカン、ドカン、ドカン！

西野 すいません、なんか。

華子 いやこちらこそ、かえって。

西野 いやいやいや、

華子 いやいやいや、

西野 いやいやいや、

華子 いやいやいや、

西野 別れたほうがいいのかな…

華子 え

涼 へっくし！

若林、駆け寄って、

若林 なんだ涼風邪か？

涼 いや急に鼻が。

若林 ちゃんと防塵マスクしろよ、鼻の穴の中真っ黒になるぞ！

涼 はい。

若林去る。

西野、涼に電話する。

西野 もしもし、涼くん

涼 何

西野 将来家、建てる気ある？

涼 家？

西野 うんうん。

涼 あるけど、何で？

西野 キヤハー！ どんな？ どんな？

涼 庭が広がってなあ、ガレージもでかくて車3台停められてなあ、ジャガーとかボルボとか？ あとプール付きだな。

西野 本気？！

涼 本気。

西野 キヤハー！

涼 ただ日本じゃ無理だから、タイかベトナムかフィリピンな。  
西野 え。

涼 ネットで検索してみるよ。3千万、家、アジアって。

西野 海外に住みたいの？

涼 なんだよ。あれ言っただけじゃなかったっけ？

西野 初耳なんですけど。

涼 とにかくな、同じ3千万の家でも、向こうだと、3階建、ベッ

ドルーム3つ、バスルーム3つ、キッチン、ダイニングルーム、

パノラマビューのリビングルーム、屋根付きテラス、庭、プール、

駐車場、全部付いてっから。

西野 そりゃすごい。

涼 馬鹿らしいぞ、日本で建てるの。もっと視野を広くしないと。

西野 へえ……。

若林登場。

若林 ター！ テメ何やってんだ？！

涼 仕事中だからまた後で！ アー、さっせん！

若林 ター！ やれやちゃんと！

西野 ゴメンありがとね！（華子に）家建てる気、あるそうです！

華子 やるじゃない。

西野 庭付きプール付き！

華子 え！ やるう。

西野 タイかベトナムかフィリピンに。

華子 おおおー！ 移住かい？

西野 さあ、どこまでなんだか。

華子 いいわね、若者には夢を！

西野 あー、浮気しないといいナー。

華子 心配なの？

西野 若いで。

華子 そんなときはそんときでね、寝てるときに首の骨でも折って、

庭に埋めちまえばいいんだから！

西野 ぎゃあ。

涼 へっくし！

華子 ひっひっひっひ！

ドカン、ドカン、ドカン

若林 おっしや涼！

涼 はい！

若林 次こつちだ！

涼 はい！

二人、去る。

華子 でもね、これから慶び事たくさんあるよ、出産、あ、結婚先  
か。結婚、出産、お家選び、子どもの進学、就職。

西野 全然想像つきませぬね。

華子 私は、ほんとに興味なかったからさ、これ以外に。

西野 でも先生の作品、「おはなちゃん」って、とってもアットホー

ムですよね！

華子 ないものねだり。

西野 あー。  
華子 結局欲しいものを夢みて描くのかしらね。

西野、ゆつくりと去る。  
華子、コーヒーカップをもつて去る。

十一年後。  
華子、億劫そうにやってくる。

華子 さてさてさて、ああ、寒いね。めんどくさい。めんどくさい、めんどくさい、めんどくさい……。ああー(溜め息)

華子、ベレー帽をかぶって。

華子 よしやるか。

描き始める華子。

西野(以下、声のみ) 宮田華子さん、八十八歳。このたび米寿を迎えられた、現役最高齢の女性漫画家です。今回、十一年ぶりに、仕事を公開いたします。

華子 何も面白いことないわよ。

西野 まあまあ、そうおっしゃらずに。

華子 邪魔しないでね。

西野 はい。先生は毎朝この時間に起きるのですか？

華子 うーん、だいたい4時くらいかな。

西野 お早いですね。

華子 勤め人じゃないから。

西野 今朝は冷えましたね。

華子 そうね。

西野 起きてすぐお仕事に取り掛かるのですね。

華子 そ。

西野 朝ごはんはどうかさっているのですか？

華子 ああ、そういやまだだった、何か食べましょ。

華子、焼き芋を持ってきて食べる。

西野 お芋。

華子 真正正銘の自然食品！

西野 いいですねえ。そういえば、先生の作品「おはなちゃん」登場人物のコーちゃんも、焼き芋が好物でしたね。

華子 あの子はいつもオナラしてるのね。

西野 はい。

華子 あれはね、モデルがいて……あれ、誰だったっけ？ 忘れた

な。あれあれ？

瓜生(声) おーい！

華子 あ？

瓜生(声) 入るぞー！

華子 やだ、誰？

瓜生、登場。

瓜生 誕生日おめでどう。

華子 なんだ。

瓜生 なんだはないでしょーよ、おめでどう。はい（ブーケを差し出す）

華子 えっ、いらぬいわよ花なんて。

瓜生 まあそういわずに。枯れる事のない花だから。君のように！

華子 何時だと思ってるのよ。

瓜生 （腕時計見て）朝5時になるか。はは、まだ暗いね。

華子 また早すぎるでしょう。

瓜生 あー、あーっ、最近声の調子おかしいって言ったじゃん。

華子 え？

瓜生 耳鼻科で診てもらったんだよ。

華子 はあ。

瓜生 「今度、細胞とつてくわしくみてみましょう」って。

華子 え。

瓜生 怖いなー！ 喉頭がんだったらどうしよう！ タバコだつてとつくの昔にやめてるのに！

華子 ……。

瓜生 どう、順調？

華子 ……。

瓜生 ひどいなー。睨まないでよ、誕生日のプレゼント誰よりも早く持ってきたのに。

華子 お花ね。はいはいありがとう。飾っておいて。

瓜生、ペン立てに花を飾る。

瓜生 華子さん、最近の女の人は、花をもらっても喜ばないのかね。

華子 悪かったね、最近の女じゃなくて。

瓜生 そんなこと言ってるないよー。

華子 何よ。

瓜生 （ニコニコして）米寿、か。

華子 ……なに

瓜生 コメ！、寿（コトブキ）。コメでたいね。

華子 めでたくないわよ、一年一年、あの世に近付いてるんだから。

瓜生 いや華ちゃんは百まで生きますよ。

華子 やめてよ。

瓜生 おれは無理だったケド…。

華子 ……。

西野（声） 宮田華子先生、生涯のお仕事のパートナー瓜生信平さん。今年で七回忌を迎えました。

華子 腐れ縁。

瓜生 何が。

瓜生 だってそうでしょう。

華子 ありがたいと思ってるよおれは。

瓜生 普通ないよ、こんな関係。おれもね、何かこう表現者だったりね、純文学の作家先生だったりしたらね、華ちゃんと僕の間をね、自伝的に発表して、賞なんか取れたかもしれない。

華子 何言ってるの。

瓜生 愛してるんだもの。君のことを。

華子 ……。

瓜生 草葉の陰から！

ナレ ひええええ、なんまんだぶなんまんだぶ！  
瓜生 (歌って) ラブレターフロム、草葉く♪

華子、しらっとしてる。

瓜生 誕生日に悪いけど、大事な話。

華子 なに。

瓜生 松野さん、死んだよ。

華子 えっ。

瓜生 ゆうべ。

華子 ……誰だっけ？

瓜生 え？！ 忘れた？ あのさ、昭文館の。

華子 え？

瓜生 まさかの正夫さんだよ。

華子 えーと…、んー？

松野、若い華子登場。

松野 先生、私の力不足で、ほんとすみません。

華 いえ、こちらこそ。

松野 まさか、十週で打ち切りになるなんて。

瓜生 そのまさかですよ、正夫さん。

松野 でも先生、ぼくは本当に面白いと思ったんですよ！

華 まあ、でも、決めるのは読者ですし。

松野 今の漫画って暴力や性が売り物になってるじゃないですか！

華 ごく一部ね。

松野 由々しきことですよ、目先の過激さに囚われ過ぎなんです！  
華 でも売れるってことが大事でしょうから。

松野 そんなですよね…。先生、また企画考えましょう。

華 あ、はい。

松野 私、先生の世界観が大好きなんですよ。

華 ありがとうございます。

松野 今後とも、よろしくお願いいたします！

華 こちらこそ(去る)。

華子 思い出した。あれが最後だったわ。

松野 すいません！

華子 あんたあの後すごいエロマンガの編集担当したね。

松野 すいません！

瓜生 あさって葬式、ドライブスルー葬儀場「安眠殿」で。

華子 そうなの。なんで急に、どこか悪かったの？

瓜生 交通事故。

華子 うそお。

瓜生 トラックと正面衝突。

華子 まあ！

瓜生 認知症進んでたのかな、高速道路逆走したって。

華子 逆走？！

松野 お恥ずかしい。

瓜生 もう免許返納しなきゃダメだったんだよ。たしか華ちゃんと

同い年だろ？

松野 はい、米寿です。

瓜生 でも交通事故で亡くなったのに、ドライブスルー葬儀場って、

なんかスルーできないよな！



松野 いやね、息子がそのほうが便利だと言うもんだから。いけま  
せんよねえ、易きに流れてしまつて。

華子 うーん。

瓜生 戦友が、一人、また一人とねえ。

華子 もうほとんどいないでしょう。

瓜生 だね…。

華子 え、それ言いに来たの。

瓜生 いやそれだけじゃなくね…。

華子 なに。

瓜生 うん…。

華子 なによー。

瓜生 そろそろ、考えてくれたかなつて思つて。

華子 え？

瓜生 お願いしたじゃないか、例の、あれさ。

華子 いつの、何のお願い？

瓜生 だからさあ…。その、

西野、涼、大人になった隼人（表記は隼）、登場。

西野 おつかれさま（と言ってお弁当を渡す）

涼 おう、わりーな！ じゃ休憩にすつぞ！

隼 はい！

涼、漫画を読みながら弁当を食べ始める。

涼（漫画に笑う）

西野 あ、私この先生にインタビューしたことあるよ。  
涼 宮田先生に？

西野 うん。

涼 へえ！ すげーな！

西野 十年以上前かなあ。ほんとすごいよ。

涼 何が？

西野 描くつて言うよりね、彫るみたいなの。

涼 え。

西野 ペンじゃなく、彫刻刀で。

涼 へー。

西野 ゾーンに入るつていうじゃない。そんな感じ。集中して。

涼 ほお。

西野 でも、常に描きながら誰かと喋つてるのよね。

涼 なにそれ。

西野 登場人物かな。

隼 あの、先輩、なんの漫画読んでるんですか？

涼 「はなこのあゆみしみち」

隼 宮田華子先生の？

涼 おう。かなり年だろ？ すげーよ。

隼 ウチの死んだお袋、アシスタントしてましたよ。

涼&西野 え！

隼 若い頃、その人のところで。

涼 まじで！

隼 死んだ親父は、編集担当で。

西野 いったいついつ？

隼 昭和じゃないすかね。

西野 昭和かい。

隼 うつつら記憶あるんですよ、絵描かせてもらった、

涼 この人の家で？

隼 ですね。

西野 もしかして！

隼 はい？

西野 あの時の男の子？！

隼 え。

西野 あたしに絵をくれたよね？！

隼 さあ……。

西野 なんか、バッタとアリの、なんだったっけ？ カービイみた

いなキャラなんだけど……。あたしあれずっと持ってた！

隼 ……みんな？

西野 じゃ、君、小さい頃何になりたかった？

涼 漫画家じゃねーの？

西野 違う！

隼 あ、本屋さん。

西野 それ！

涼 売るほうか。

西野 でしょでしょでしょ！

涼 お前なんでウチの会社で解体業やってんだよ。

隼 ハハ、なんででしょーね？

西野 会ってる！ 絶対会ってる！ キャラの絵描いたの思い出し

て！

隼 んん？ んー……。……。ぱくちゃん？

西野 それだア！！

涼 声でかい。

西野 つながったー、つながったわ。

涼 なんか知ンないけど、よかったな。

隼 会ってたんですかねえ。

西野 会ってたのよ。

涼 一つの話だったの。

西野 だから、十年、いや十一年前だよ。

涼 おれが二十歳の頃か？

西野 うん。

涼 親父も、若林さんも生きてた頃か。

若林登場。

若林 ター！ 一生懸命やってかお前ら！

涼 あ、はい！

若林 ゼッテー悔いのないように生きろよ！ ター！

若林去る。

若林去る。

涼 あざっす！（ブルブルっと身震いして）おおう。

西野 どしたの？

涼 昔の、親父がたいへんだった頃思い出したわ。

西野 あー、がんばったもんね。

涼 会社の返済にあてた金あったら、タイかベトナムかフィリピン

にデカイ家建てられたな。

西野 これから貯めて建てようよー！

涼 や、ダメだ。

西野 なんでー。

涼 おれらの子どもはここで育てたい。たとえ小さな家だったとしても。

西野 ……まあ。

華子 (大声で) ハッピーハッピー！ イエーイ！

瓜生 わお！ びつくりした！

奈美 先生、ノリノリー！

幼い隼人、登場。

隼人 おばあちゃん！

華子 おお

奈美 隼人、

隼 あー、なんか思い出した！

西野 え、なに。

隼人 読み聞かせするね！

華子 え。

隼人 読み聞かせ、流行ってるんだよ。

華子 それって逆じゃない？ あたしがあんたに読んで聞かせるんじゃない？

隼人 まーいーからいーから。こまかいことは。じゃ、はじめます。

ばくちゃんシリーズ！「バツタばくちゃんとアリばくちゃん」

華子 おー、ストーリー作ったの？

隼人 そうだよ。夏の間、バツタばくちゃんはバイオリンをひいて

ばかりでしたので、労働はしませんでした。そのかわり、聴いてくれるお客さんからお金を少しだけもらいました。アリばくちゃん

は、まじめなので労働、労働、労働、毎日がんばりました。

しかしやがて冬がおとずれます。バツタばくちゃんは寒くて困りました。アリばくちゃんは、それまでの貯金とあたたかい家で、

みんななかよく暮らしました。バツタばくちゃんは凍え死んでしまいました。

華子 えー！

瓜生 死んで終わり？

隼人 虫タイプは氷タイプに弱いんだよね！

華子 あらま。

隼人 続き、

華子 続きあるの？

隼人 うん。かちんかちんに凍ったバツタばくちゃんは、バイオリンを弾いたままの、素晴らしい格好でしたので、宝石のようにきらきら、きらきら、きらきら、きらきらしていました。おしまい。

瓜生 あんま変わんねえな！

華子 あじゃー。

隼人 おまけ！

華子 おまけ？ よしきた！

隼人 それをみたアリばくちゃんは、感動して、バツタばくちゃんってすごいなあ、ぼくもそんなふうに生きたかったね、うん、

— そうだねえ、と言いました。

華子 なるほど、素晴らしい。

隼人 そして春が来て、

華子 春来たんだ！

隼人 バッタぱくちゃんは氷が溶けて、生き返りました。拍手〜！

瓜生 おー！

隼人 また、バイオリンをひいて元気に音を出しましたとき。

お、し、まいー。拍手〜！

華子 やるね、あんた才能あるんじゃない？

隼人 まーね！

奈美 大きくなって（涙）

隼人 じゃね！

瓜生 ええ、いっちゃうの。

隼人 おばあちゃん、次はカーテンコールのとき来るね！ あば

よ！

華子 あばよ！ はー、読み聞かされた！

瓜生 すごいね。

隼人 そんなことがありましたねえ。

若林 お前、変わったなあ。

瓜生 華ちゃんはバツタ派？ アリ派？

華子 え？ どっちもなんじゃない？

瓜生 そうなの。

華子 楽しんでるけど、労働の要素あるわけでしょ。

瓜生 だねえ。

華子 それで？ お願いってなんだったつけ？

瓜生 え

華子 言ったじゃない、お願いがあるのかなんとか。

瓜生 いやあるんだけど。この流れじゃなあ……。

華子 なによ。

瓜生 また後にする！ じゃ！

華子 へんなの。

瓜生 コーヒーごつそさん！

華子 飲んでないわよ。

瓜生 おー、そっか！

瓜生、去る。

華子 変わらないんだから。

しばし、執筆を続ける華子。

眠ってしまう。

そしてまた、十一年の月日が流れる。

奈美、介護職員として語りかける。

奈美 宮田サーン、宮田サン、

華子 ……あ

奈美 寝てましたよ。さ、行きましょう。

奈美、下手のテーブルへと華子を連れて行く。

華子、絵を描き始める。

西野 宮田華子さん、九十九歳。このたび白寿を迎えられた、世界最高齢の女性漫画家です。今回、十一年ぶりに、執筆の様子を公開いたします。

涼 (漫画読みながら) すげーなあ、もう九十九かよ。

隼 はい。

涼 でも、笑いが昭和で安心するわ。

隼 え。

涼 焼き芋食って屁こいたり、モチのどにつまらしたり！

隼 ああ(笑)

華子 おもしろえ！

西野 まあ！

華子 こいづはー、おもしろえ！

西野 現在、宮田先生は、老人保健施設に入所されましたが、その創作意欲はまったく衰えることはありません。

華子 おっしや！

西野 先生は毎朝この時間に起きるのですか？

華子 は？！

西野 お早いですね。

華子 なにが？

西野 今朝は冷えましたね。

華子 は？！

西野 起きてすぐお仕事に取り掛かるのですね。

華子 いえーい！

西野 朝ごはんはどうなさっているのですか？

華子 芋(えもお)！ 焼き芋お！

奈美 宮田サン、今日おかげでしたよ。

華子 ーも！

奈美 好きだもんね、お芋。今日、お客さん来るからね、よろしくね。

奈美、去る。

西野 本日は、宮田華子先生を敬愛してやまない漫画家の、寺沢晶先生が、施設の許可を得まして特別にお越しになっています。

寺沢、登場。

寺沢 キャー！ センセイ！

西野 その対談の様子をご覧頂きましょう。

寺沢 どうも、はじめまして、寺沢ですう。

華子 ……………。

寺沢 キャー！

華子、ゾーンに入って絵を描いている。

寺沢 は、やっぱり凄いですね。原稿をみつめる眼差しが。

華子 ……………。

寺沢 私、子どもの頃から先生の大ファンです。コミックスも全巻持ってます。

華子 (シヤキつとして) あらそう、ありがたいわねえ。

寺沢 サインお願いできますか？

華子 いいわよ、もちろん。(サインする)

寺沢 キヤー！ センセイ！

華子 お名前は？

寺沢 てらさわ・あきらですー

華子 テロリスト、あきこさん？

寺沢 やだ物騒！ てらさわ！ センセ、てらさわ・あきらです！

華子 テラっすわー

寺沢 てらさわ！

華子 テラスハウス？

寺沢 てらさわ！

華子 おのでら？

寺沢 て・ら・さ・わ

華子 デラベッピン？

寺沢 もおそれでもいいです！

華子 てらさわ・あきらさんへ。

寺沢 聞こえてるんじゃないですか！

華子 補聴器の調子がね。

寺沢 ああ、

華子 つけてないけど。

寺沢 センセイ…

華子 はい。

寺沢 わ、ありがとうございます！ わー、ペンで、はなちゃんも描いてくださった。すごい。宝物にします。

華子 ペンじゃなきゃ何で描くの？

寺沢 あ、あたしデビューから全部パソコンで描いてるので。

華子 パソコン？

寺沢 ペンタブで。あの、機械ですね。

華子 機械、……停電したら何で描くの？

寺沢 あー、えっとー。考えてもみなかったな。

華子 ま、がんばりなさいよ。

寺沢 はい。

華子 売れる？

寺沢 めっちゃ稼いでます。

華子 ヒッヒッヒッヒッヒ。

寺沢 あ、え？

華子 それが大事ね。

寺沢 はい！

西野 実際お会いしてみたいかがでしたか？

寺沢 直接先生にお会いしたことで、また一段と創作意欲が湧きま

した。

西野 今後の作品にもいかされますか？

寺沢 ですね！ エールをもらったんで、もっとやっちゃっていいのかなって。妄想カップリング、とまらなくなっちゃって！

西野 今後のご活躍に期待しています。

涼 さ、休憩おしまいにするぞ！

隼人 はい！

西野 じゃ、あたしも帰るね！

涼 おう、気をつけてな。

瓜生(声) おーい！

解体作業をはじめる涼と隼人。ハンマーを振りかぶって、  
ドカン！

瓜生(声) 入るぞー！

ドカン！

瓜生登場。

瓜生 誕生日おめでとう！

華子 ……。

瓜生 白寿か、本当に、おめでたいねえ。

若い瓜生と華子、登場。

瓜生&瓜 どう、順調？

華 はい、がんばってます！

奈美 先生、これ仕上げ終わりました！

華 ありがとう！ じゃ、こっち背景よろしく！

奈美 はい！

望月、登場。

望月 先生！ 原稿いただきにありがとうございました！

奈美 もっちイー！

望月 やあ！ ハニー！

ドカン！

瓜生 華ちゃん？

華子 ……。

松野 どーもー、「エロトピア」の松野ですー！

瓜 なんて来たの。

松野 いいじゃないですか！ 近くに寄ったんだから。先生、これ

差し入れ、焼き芋！

華 ありがとうー！

ドカン！

瓜生 華ちゃん！

ドカン！

瓜生 あー、あー、おれ本当に声が出なくなったかな。声帯とった

しなあ……。華ちゃんの耳も遠くなったかな。

華子 聞こえてるわよ、でも、そんなこと考えたくないの。

瓜生 どうして、おれのお願ひ、やっぱりダメかい。

華子 うん。

瓜生 どうしても？

華子 どうしても！

ドカン！

瓜生 後生だよ。

華子 だって、あたしが描き続けなきゃ、あなたたちほんとうに死んでしまうじゃないの！

瓜生 え

ドカン！

華子 あたしが描いていけば、いつまでもみんなイキイキしてるじゃない！ あたしはそれが楽しい！ 幸せ！ ずっとこうしていたいわ！

瓜生 連載、とつくに終わってるのに？

華子 関係ないのよ！ ペンと紙があれば！

ドカン！

瓜生 一緒の墓に入ってくれよ！ 今すぐいんだぜ、樹木葬とか！ 永代供養とか、墓友（ハカトモ）って言葉もあるくらい！

ドカン！

華子 瓜生さん、ありがとう。

瓜生 え。

華子 ありがとう。ずっと私と仲良くしてくれて。

瓜生 そりゃそうだよ。

華子 描く機会をあたえてくれて。

瓜生 君が選んだことだよ！

華子 あー、結婚しなくてよかった。

瓜生 ガックリ！

瓜 考え直して！

華 無理です！

華子 イライラしなくて済んだし、あたしたち、喧嘩もしなかった。ずっとあなたを大切に思い続けられた。

瓜生 照れるなあ。

華子 ありがとう。紳士でいてくれて。

瓜生 ぼくとしては当然なんだよ。

華子 それでも。尊敬してます。

瓜生 だからさ、おれのお願いさあ。一緒の墓に！

ドカン！

瓜生 愛してるんだもの、君のことを！

華子 ありがとう。

ドカン、ドカン、ドカン！

バラバラと、壁が崩れていく音。

華 夢があるんです。

瓜 なに。



華 ずっとこうしていたいなって。

瓜 漫画？

華 はい。そしたら、満たされていますから。すごいヘタクソだったじゃないですかー、あたし。

瓜 今もだよ。

華 ひどい！

奈美 ひどいです！

望月 ひどいね。

松野 ひどいひどい。鬼畜。

瓜 自分で言ったでしょ。

華 でも……

奈美・望月・松野 ねえー！

華 どうせヘタクソですよ。

奈美・望月・松野 あーあ。

瓜 でも！ でも、線がいいよ。

華 え

瓜 華ちゃんの描く線が、いい。

ドカンドカンドカン…

華 ありがとうございます。

瓜 応援する。

奈美 応援します！

望月 応援します！

松野 応援します！

華 あたし、百歳まで描き続けたいです！

瓜 そりゃ無理だろ。

華 やりますから、みててください！

瓜 そんなときやおれ死んでるよ！ おれ、105歳か？

ドカンドカンドカン…！

西野（声のみ） 宮田華子さん、百歳。

瓜生 誕生日、おめでとう！

幼い隼人、花束を持ってくる。

隼人 おばあちゃん！

華子、受け取る。

華子 まあ！

ドカンドカンドカン…！

かつての華子の仕事場が解体されていく。

華子 あ、り、が、と、う。

音楽。

溶暗。

(幕)